

2.災害や感染症が流行した時

2020年の新型コロナウイルス感染症拡大は、みなさんやみなさんのご家族の生活を一変させました。入学式もできなかった新1年生のみなさんは特に心細く、寄る辺ない日々を送ってこられたのではないのでしょうか。前期は全面的にオンライン授業となり、キャンパスにも行けず、大学生になったという実感が持てなかった人も少なくないと思います。新型コロナウイルス感染症は全世界に広がり、国内外の移動が一時的に制限されたことや経済状況への打撃の大きさ、見通しの持てなさ、国による政策の違いなどから共感よりも分断があちこちで見受けられるということが起こりました。

一方1995年の阪神淡路大震災の時は、局地的な災害であったため、阪神間ではガスや水道の復旧に時間がかかりましたが、近隣の都市では何事もなかったかのような日常が送られていました。被災地では、日常生活が戻らないつらさに加えて職場や学校でさえ、被災状況に共感してもらえないことが何よりつらかったという声も多く聞かれました。また地震や台風などの災害は、はじめに甚大な被害をもたらしますが、目に見える被害は時間とともに少なくなるのが特徴です。

このように、災害の影響が及ぼす範囲の違いや被害からの復旧の経緯の違いによっても被災状況や人々の被害への受け止め方、感じ方は異なります。災害の種類や形態によって私たちの気持ちへのダメージも変わってくると言えるでしょう。